諏訪小だより

令和　４年９月１日
９月号
多摩市立諏訪小学校
校長　齋藤　幸之介

「あゆみ」に込められていること

校長　齋藤幸之介

例年にない早い梅雨明けの後の猛暑は夏休みが始まってからも続き、猛暑日は観測史上最も多くを数えることになりました。暑さ対策の難しさを強く感じています。

一方で、東北地方及び北陸地方を中心に豪雨による甚大な被害を受けました。この場をお借りしてお見舞い申し上げます。

新型コロナウイルス感染者数も未だに「高止まり」傾向にあります。残暑における熱中症対策を講じながら、感染症対策も十分に図ってまいります。皆様にはさらなる御協力を賜ることになりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、４２日間の夏休みを経て今日から子供たちが学校に帰ってきました。仲間との再会を喜ぶ声で学校は賑わっています。

２２日（木）は前期の終業式です。この日に渡すあゆみは、子供たちが今まで行ってきた教育活動についての記録です。もちろん、教科学習の成果を「よくできる」「できる」「もう少し」の３段階で表した「評定」があります。一方で、学校生活全般や３～６年生の総合的な学習の時間、特別の教科道徳、３・４年生の外国語活動は、文章による評価、つまり「所見」として記しています。

先日、私の先輩が、元教員が保護者向けに書いた文章をくださいました。そこには、以下のことが記されていました。

所見に込められていること

・所見には、お子さんの輝く姿が記されている。
・基本的には担任の先生が全ての項目を書く。ただし、音楽や図工、教科担任制の教科は担当の先生からコメントをもらうこともある。
・通知表は、担任の先生一人で作っているわけではない。学年の先生同士で読み合い、必要に応じて加筆修正し、管理職が最終チェックを行う。
・文章表記のところには、基本的には、良いことを書く。お子さんの成長したところ、がんばったところ、すてきな一面をお家の方に知ってほしい。
・課題となる点はやんわりとした表現で書かれることが多い。

（参考「【元小学校教員が教える通知表の読み解き方】大切なのは「よくできる」の数ではないってホント!?」HugKum、2022 年、小学館）

所見を通して伝えたいこと

さて、今申し述べたことには、「教員側にとって負担が大きいのは、実は文章で書かれた「所見」と呼ばれる部分」であることも書かれています。では、評定がありながら、どうして所見が必要なのでしょうか。

１９４５年以降の新しい教育でもすでに評価のことは重視されてきました。テストを中心とした、ある意味科学性を踏まえた評定ももちろん重要です。しかし、どうしても評定では表現しきれないこと、例えば「折に觸（ふ）れ機會（きかい）をつくつての観察」を通して見られる子供たち一人一人の特性を見取り、そしてこれをお伝えすることが大切であるからに他なりません。「内面的な真の関心をつかまんがためにこそ、われわれは苦しむ」と言われるほど、所見を記していくことは難しいです。しかし、苦労をしながらも本校の教員が「児童の生活のなかにとびこむことによって」見出した子供たちのよさをお伝えすべく取り組んでいることをお分かりいただければと思います。

（参考　「社会科とその出発－小学校社会科の研究－」（上田薫著、同学社版、1947 年））

指導の改善－私共にとっての評価

教育における評価は、皆さんにあゆみなどでお伝えをするという意味と共に、教員の指導の改善のために用いられるという機能があります。子供たちの一人一人を改めて見つめる機会を通し、自分の指導のあり方を振り返り、よさを認識すること、また課題を抽出して今後さらによい指導が行えるようにしていきます。

大変口幅ったいことを申し上げましたが、　以上のことを踏まえていただきながら保護者・御家族とお子さんとでお読みいただければと思います。